インド「理系」に熱視線

名門大ＩＩＴ、製造業も積極採用

GE・エアバスが面接枠

インドは毎年100万人に及ぶ理系人材を輩出する。なかでも理系で世界トップクラスの難関校ときれるインド工科大学（ＩＩＴ）の学生は「金の卵」といわれる。優秀な人材の採用では従来はＩＴ（情報技術）企業が中心だった。だが昨年12月から始まった今期はインド政府の製造業育成策「メーク・イン・インディア（インドでつくろう）」などもあり、欧米製造業などの積極姿勢が目立つ。

田中貴金属も参加
ＩＩＴボンベイ校内での面接

ＩＩＴの学生は世界の有力企業から引っ張りだこで、採用に参加した企業は高額の給与を提示することが珍しくない。なかでもＩＩＴボンベイ（ムンバイ市）はエリート校とされる。第1期の採用は昨年末で終了。現在は1月中旬から6月までの第2期の最中で、最終的に来訪する企業は計300社近くに上る見通し。

今期の特徴は製造業の動きが目に付くことだ。12月初旬に米ゼネラル・エレクトリック（ＧＥ）や欧州エアバスが採用活動を実施したほか、英ロールス・ロイスも初めて参加。「メーカー各社は技術開発だけでなく、物流網構築など経営の基盤を支える優秀な人材が欲しい」と田中貴金属の持ち株会社であるＴＡＮＡＫＡホールディングスの田直哉執行役員はいう。

ＩＩＴでは大学から採用の「資格」を得た企業が決められた日時に学校を訪れ、応募してきた学生をその場で面接し、すぐに内定を決める仕組みだ。優秀な学生を次々に「落札」していくため、企業にとっては面接枠の日時が重要だ。田中貴金属はＩＩＴボンベイで採用活動し、12月1日に始まる採用期間で、12月3日という早い時期に枠を得た。

「筑波工場で働きたい」「5年、10年後の経歴はどうなるのか」など応募学生からの要望や質問もあり、午後6時から始まった面接は深夜にまで及んだ。採用が決まったのは日本をよく理解していながった例もある。

ＩＩＴボンベイで製造業のエンジニア、研究職として内定を決める学生は今期で4割を超え、前回の3割強と比べ増えた。

背景には2014年5月に発足したモディ政権が打ち出した「メーク・イン・インディア」構想がある。同国では製造業育成の機運が高まっており、学生もメーカーに目が向く。ＩＩＴが田中貴金属を優遇したのも11年からＩＩＴ学生をインターンで受け入れてきた実績に加え、「製造業としての採用が非常にありがたい」（ＩＩＴボンベイの採用関係者）からだ。

今期のもう一つの特徴はインターネット産業などで躍進するベンチャーの企業を選ぶ学生が多いことだ。

インドのネット通販大手であるフリップカート、スマートフォンのアプリなどを使ったタクシー配車サービスのＡＮＩテクノロジーズなどが積極的な採用活動を実施。これら企業の創業者がＩＩＴ出身なこともあり、学生に人気が高い。

数学に強いインドの理系人材はこれまでも米国のＩＴ業界などで活躍することは多かった。今後は製造業や「インド発」のベンチャーでも世界に打って出る人材が増える可能性がある。インドが輩出する理系人材は幅広い分野で無視できない存在となりそうだ。

インドは「理系偏重」の傾向が強く、多くの優秀な学生がＩＩＴなど理系大学を目指す。

90年代後半からコンピューターやＩＴ（情報技術）業界が急成長して数学に強い人材の需要が拡大したことに加え、貧困からの脱出を目指す若者たちを引き寄せたことも、この傾向を加速させた。

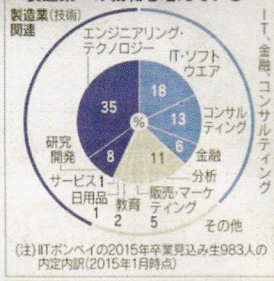
ＩＩＴ出身者は、ＩＴ関連では印ＩＴサービス大手インフォシスのナラヤナ・ムルティー創業者兼名誉会長などが知られる。インド準備銀行のラジャン総裁といったＩＴ以外の分野にも人材を輩出。日系では日立製作所の印子会社で工場用産業機器を手掛ける日立ハイレル・パワー・エレクトロニクスのピユッシュ・シャー社長も卒業生だ。

＝英文の関連特集を Nikkei Asian Review（http://asia.nikkei.com/）に

ムンバイ＝堀田隆文

お断り　「アジア注目銘柄」は休みました。

ＩＩＴ学生の進路は多岐にわたり、製造業への就職も増えている



（注）ＩＩＴボンベイの2015年卒業見込み生983人の内定内訳（2015年1月時点）

ＩＩＴ出身の主な著名人、経営者

- ラグラム・ラジャン氏
  経済学者。インド準備銀行総裁
- ニティン・ノーリア氏
  米ハーバード・ビジネス・スクール学長
- アルン・サリン氏
  英ボーダフォン元ＣＥＯ
- ナラヤナ・ムルティー氏
  印ＩＴサービス大手インフォシスの創業者兼名誉会長
- スニール・コール氏
  シティバンク銀行元社長
- サチン・バンサル氏
  印ネット通販大手フリップカートの創業者・ＣＥＯ
- ディープンダー・ゴヤル氏
  印レストラン予約サイト運営ゾマト・メディアの創業者・ＣＥＯ

入試倍率100倍の難関校

理系偏重の傾向強く

インド工科大学（ＩＩＴ）は、同国初代首相に就いたネルー氏が1951年に自国の産業振興のため設立した。多くの有力理系大学を抱えるインドの中でも世界的に知名度がある。ＩＩＴは現在国内16カ所にまで増え、入学者は全体で年1万人程度で入試倍率は100倍を超える難関校だ。イ